

## アンコールやまなみファンド

## 2010年度 活動報告

## 主な活動記録

首都圏の部		富山の部	
年月日	行 事	年月日	行 事
2010年		2009年	
10月30日	2010年定例理事会及び総会 14名 渋谷アイビスビル	10月29日	2010年総会報告と懇親会 15名 とやま自遊館
12月	「カンボジアの教育と AYFの活動報告」 歴史文化交流フォーラム講演会にて		
2011年			
1月28日	新年会&今後の活動について 渋谷アイビスビル		
3月25日	第六回ツアー準備会（第1回）13名 渋谷アイビスビル		
4月	東日本大震災義援金の呼掛け	4月28日	東日本大震災義援金の呼掛け
5月27日	第六回ツアー準備会（第2回）12名 渋谷アイビスビル	7月4日	AYFとやま会 12名 (第六回ツアーについて) とやま自遊館
7月22日	第六回ツアー準備会（第3回）14名 渋谷アイビスビル		
9月5日	第六回ツアー準備会（第4回）13名 渋谷アイビスビル		
10月7日	第六回ツアー準備会（第5回）14名 渋谷アイビスビル		
10月	総会準備（事務局） 渋谷アイビスビル		

## 〔内 容〕

- 「やまなみ塾」訪問とアンコール遺跡見学ツアーについて
  - ・2010年度は実施しませんでした。
  - ・次回、第六回ツアーは、2011年11月25日～28日に予定し、今、準備中です。
  - ・昨年同様、今回も、やまなみ塾の子供たちの主体性を大切にし、ともに楽しむという企画のもとに、準備を進めています。  
とくにここ2・3年間における子供たちの成長には目覚ましいものがあります。そんなところをさらに引き出してあげられるような交流会になればと期待しています。
  - ・前回は、ベトナムのフエを見学しました。今回は、ラオスの古都ルアンパバーンを訪問します。

## 2) クラウ村の子供たちへの教育支援活動

### ① 村の子供たちに引き続き英語を教える。

2名の教師の給料、塾の管理・維持費支援を継続

### ② 日本語の学習や日本の文化に親しむ機会をつくる

- ・ 去年10月より、週に一度（土曜日に）日本語の授業がはじまったが、日本語の先生は、いろいろ工夫して教えている。
- ・ 村の青年たちの日本語学習意欲にこたえて、教師や教材の支援。

### ③ 塾にオルガンなどが寄贈されたこと、クレヨン画用紙などのプレゼントなどもあり、不定期ではあるが、音楽や絵の先生の指導もあって、子供たちの情操教育は少しずつすすんでいる。

### ④ 図書購入費から、西洋や日本の童話や昔話などクメール語版を購入。図書室の蔵書も充実してきている。

## 3) 会員の現状

会員の友人、知人などへの誘いは一通りゆきわたったためか、新規会員の増加はわずかであった。（会員数86名 14名退会、2名入会）

## 4) ホームページの管理・更新など

昨年度に引き続き岡田寛さんをお願いしました。最近の更新内容は、第五回ツアーです。イベントごとに、また現地からの新しい情報が入り次第、なるべく早く情報を提供できるように更新をお願いしています。

## 5) 東日本大震災義捐金の報告(歴史文化交流フォーラム全体)

日本赤十字社へ 600,000円

南相馬市災害対策本部へ 1,000,000円

## 5) クラウ村の青年たちの活躍 (JSTのホームページから)

## 現地の様子 (JST のホームページから)

- 1) クラウ村の子供たちの体格があまりにも小さいので、調査 (対象 100 人の親)  
(日本の子供と比べて、平均身長は 20cm ほど低く、体重は 20kg ほど軽い)

朝食を食べて学校へ行く・・・23 人

お金をもたせて駄菓子を買わせる・・・大半

何も食べない子も

中学に通わせている・・・12 人

理由

- ・お金が 1 日に 1 ドルもかかる
- ・遺跡でもの売りをさせている
- ・中学は遠いので、通学の自転車がない

(自転車があれば通わせる・・・15 人)

この現実に対して、JST では次のことに取りくんでいる

- ① 栄養補強プロジェクトを立ちあげる
- ② 野菜栽培促進のため、村人を集めて指導
- ③ 親に対して「子供の教育の大切さ」をテーマに講演 (チア・ノル氏) し、親の自覚を高める

- 2) 遺跡に関する意識がない。ほとんどが単に観光対象物と思っている。

教員養成学校の学生たちに、社会見学として、修復作業の現場の見学をさせた。

場所は、カンボジア人が多く責任をもって仕事に従事している JSA 南経蔵修復現場

将来、教師として子供たちの前に立つ者として、遺跡の歴史を知り、彼らが自身がそれを語り、受け継いでいくことの大切さを教えていくことが必要。

- 3) 青年たちが、「村の大人たちよ、もっと自覚を！」という呼びかけでクラウ村の大人たちを集め集会を開き、活動をはじめている。

- ① 環境衛生活動の一環として、“ゴミ集め運動”
- ② 緑化対策として“植樹運動”(マンゴーの植樹)
- ④ 土地を耕して、雑炊用の野菜栽培を率先して行う
- ⑤ 煮炊きするかまどの覆いとして屋根をつくる。

## JSA アンコール修復事業について (中川さんから)

JSA アンコール修復事業は7月で一応第3フェーズ (2008.1-2011.7) が終了、一旦メンバーを解雇して退職金を支払いました。

8月に竣工図等の作成のための測量と最終表面仕上げなどを少人数に来てもらって行いました。

9月から第4フェーズ開始の予定でしたが、ユネスコ等の事務が遅れており、11月からのスタートを目指して各方面へお願いしているところです。

第3フェーズの報告書は12月12, 13日の現地国際会議までに間に合わせる予定です。

今年の9月中旬に早稲田大学オープン教育の学生とサンボーでの“遺跡の保存と周辺の村”ワークショップ (1週間)、アンコールで4日間、サンボーとアンコールの比較を行いました。

クラウ村の子供達関連については、吉川さんから報告があります。

10/22 中川武